



第13回 文京区医師会学術集会 抄録

平成27年2月28日（土）

於 文京区医師会館 1Fホール

第I部

座長： 森谷 茂樹
金 吉男

1. 「要介護高齢者への摂食機能療法」

医療法人社団 LSM 寺本内科・歯科クリニック（歯科） 寺本 浩平

推計によると、全国の65歳以上の高齢者は3186万人、認知症患者は462万人と高齢者の15%を占める時代になった。施設や病院の十分な増設が見込まれない中、入所を待つ「待機高齢者」は全国で52万人を超えている。在宅医療の充実化は急務の課題といえる中で近年、「誤嚥」や「窒息」に代表される摂食・嚥下障害を有する要介護高齢者が急増している。今回は、摂食・嚥下機能評価に基づいた摂食機能療法について報告する。

2. 「超高齢化社会における医療と介護～今後日本はどんな道を歩むのだろうか～」

奥山整形外科 奥山 英二

昨年末より拘束介護（シニアマンション）が問題となっている。
特別養護老人ホームには待機で入れず、評判の良い有料老人ホームには高額で手が出せない。
行き場のない認知症高齢者は制限外のホームに流れている。
この拘束介護は果たして違法か否か？
介護施設が人手不足で閉鎖や、1/2のベッド数で運営されている現実の中で、今後日本は
どんな道を歩むのだろうか？
20年後の日本を見たいような見たくないような・・・未来は！！

3. 「事例発表・ターミナル患者の自宅浴を実現したとりくみ」

～ターミナルヘルスプロモーション～

ひかわした訪問看護ステーション 島津 はるか

対象は、多発性骨髄腫、80代、男性、要介護4。看護師介入による自宅浴の実現と継続が、ヘルスプロモーションにおけるエンパワメントをもたらし、入院中はほぼ寝たきり状態で、自宅浴と飲酒のみが希望だった対象が、半年後には杖歩行で結婚式に参列し、「ドライブで思い出の地へ行きたい」等と意欲的に過ごすようになった。患者の希望を支えるには、かかわる看護師自身の葛藤が伴うが、それも含めて患者と向き合う姿勢が、患者の自己決定と自己実現を支えるのではないかと考える。

第Ⅱ部

座長： 谷田部 優
新井 悟

4. 「認定・専門薬剤師について」

スエヤス調剤薬局 島田 淳史

従来の薬剤師は調剤や医薬品の供給など薬局内での業務が中心であったが、現在ではチーム医療の中で薬の専門家として必要とされている。そのため認定・専門薬剤師制度による高度な知識と技能を有する薬剤師の育成が必須であり、今後制度が整備され、発展していくと考えられる。今回の発表は私自身が取得を目指しているHIV認定薬剤師になるための具体的な取組みとお薬手帳を介した他職種連携について報告した。

5. 「咀嚼と健康」

やまとむらデンタルクリニック 太田 修司

昨今、「口腔リハビリテーション」をはじめとするオーラルケアと全身疾患に至る研究が数多くなされ、その予防に対して大きな成果を上げている。特に口腔機能管理向上による健康寿命の延長させることは特筆に価する。

今回、「咀嚼と全身管理」について、咀嚼能力を回復することによって、基礎疾患を改善させたと考えられる症例を提示し、すでになされている研究とともに考察を加え報告する。

6. 「アナフィラキシーショック時におけるエピペン使用について

～文京区立小中学校における学校薬剤師の取り組み～」

虎薬局 新井田 純坪

2012年12月 調布市立の小学校で食物アレルギーのある児童が給食を食べて死亡した事件が発生して以降、アナフィラキシーショックが社会的な問題として取り上げられている。我々、本郷学校薬剤師会のメンバーは文京区でこのような事件を起こしてはならないとの決意のもと、日々この問題について情報交換や研修会を行っている。本日は、アナフィラキシーとエピペンの概略とともに、本郷学校薬剤師会の活動をお伝えする。

7. 「スギ花粉症の新しい治療法 — 舌下免疫療法」

とくなが耳鼻咽喉科 徳永 雅一

現在スギ花粉症の有病率は国民の4分の1に達しており、それは生産性の損失など社会問題にまでなっています。スギ花粉症治療の多くは対症療法で、根本的な治療である免疫療法は、今まで国内では皮下注射による方法しかなくあまり普及していないのが現状でした。しかし昨年10月から新しい免疫療法であるスギ花粉舌下免疫療法が保険適応で開始となり、スギ花粉症で困っている多くの患者さん達に根本的治癒をもたらす可能性が期待できるようになりました。今回の講演では、スギ花粉舌下免疫療法の使用方法、治療効果、副作用等につきお話いたします。

平成 27 年 2 月 28 日 文京区医師会 学術集会 抄録

主催：文京区医師会

共催：文京区歯科医師会・文京区薬剤師会・訪問看護ステーション連絡会